

北 星



柏崎市立北鯖石小学校
学校だより 437号
令和7年 12月 発行
柏崎市中田1743-2
TEL 0257-22-4454
FAX 0257-20-1753
E-mail kitasaba@kenet.ed.jp

系統性の重要性を再認識する

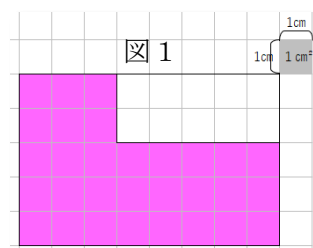
増井 貴

12月中旬になって、2年生が九九の暗唱をしに職員室にやってくるようになりました。これは、「2年生あるある」で、2年生の年末といえ九九集大成の時期です。すらすらと唱えていく子、途中を飛ばしてしまい立ち止まる子…。そして、何度も挑戦して「合格」と言ってもらえたとき、とても素敵な笑顔で帰っていくんです。

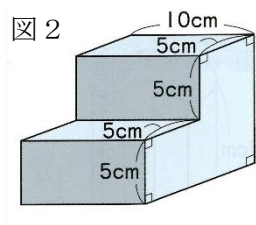
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

最近、4年生、5年生の算数の授業に参加するチャンスがありました。

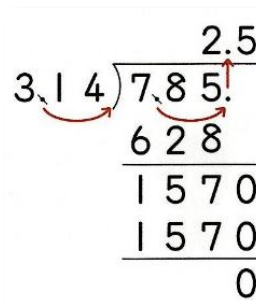
4年生では、「面積」を学習しました。長方形、正方形を学習してきており、この日は複合図形を学習しました（図1）。この図形の面積を求めるため、図形を分割して長方形の合計を考えたり、欠けている部分（白い長方形）を引いたりしていろいろな方法で計算します。この授業中、4年生みんなで6種類の解き方のアイデアが発表されました。



この授業では話題にしませんでしたが、6年生になると、立体の学習で、右のような問題が出されます（図2）。直方体や立方体の体積の学習の後です。この問題を解くとき、生きてはたらく力は、先の4年生で学習した内容です。6年生になったとき、きっといくつかの解き方を思い出すことができるでしょう。



5年生が難儀するのは、「小数のわり算」です。大人なら、電卓を使うところですが、5年生の場合、その仕組みを学ぶ必要があります。小数点の移動とか、余りが出たときに小数点をどこにつけるとか、わり切れないときに小数第○位を四捨五入するとか…。聞いているだけでも頭が痛くなります。



ただし、わり算のひっ算の基本は「たてる・ひく・おろす」という手順です。これは4年生で学習します。そして、「たてる」ときに使う力は、2年生で学習する「九九」です。また、「ひく」ときに使う力は、1年で学習する「2桁－1桁（例 13－8）」の計算です。この1年生や2年生での「積み残し」が、次の学年に上がったときに負の要素としてはたらき、「算数嫌い」が生まれていきます。

このように、学習内容が一定の順序やきまりに従って筋道を立ててまとまっていることを「系統性がある」といいます。そして、小学校の学習ではどの教科にもみられる傾向です。手を抜いてよい学年は1つありません。今回の授業で系統性の重要性を再認識しました。そして、子どもたちが「分かる」「できる」→「楽しい」「もっとやりたい」と感じられるよう、研修や教材研究をがんばろうと気持ちを新たにしました。

柏崎市HP